



菊地 広隆
(創政会)

菊地議員の動画はこちら



質問項目

- ・企業誘致に係る市の組織体制について
- ・行政DXの推進と業務再設計による時間創出について

企業誘致に係る市の組織体制は

全庁的にバランスの取れた体制を検討

議員 釜石の有効求人倍率は0・69倍という状況。働きたい人よりも求人が少ない現実がある。背景には物価高騰、原材料高、最低賃金の上昇、実質賃金の低下など外部環境の影響がある。企業が雇用を広げられない状況にある。一方で製造品出荷額は1581億円(令和5年度)と沿岸最大規模であり、港湾と高速道路の両方を活用できる構造を持っている。この強みを政策としてどう伸ばし、雇用拡大につなげるのか。

市長 企業誘致は産業政策の中核をなす極めて重要な施策である。既存立地企業の新たな事業展開の後押しや工場拡張に向けた支援などフォロワーアップに努めてきた。港湾機能と物流特性を生かした誘致活動を推進している。企業誘致を戦略的に推進し、地域経済の発展につなげる。

議員 既存誘致企業16社の安定と拡張が重要。撤退を防ぎ、追加投資と雇用拡大につなげる必要がある。伴走支援の強化と新規誘致の推進について、戦略や目標は。

市長 これまではその都度対応してきたが、行動規

範と当面の目標を定めている。既存企業への伴走支援の強化に加え、新規企業誘致に取り組んでいる。企業訪問を通じて信頼関係を構築し、操業維持と拡大を支援している。

議員 市の人員体制は十分か。今後の業務量を踏まえれば体制強化が必要ではないか。

総務企画部長 職員数は減少しており、限られた人員の中で業務を進めている。重点分野への人員配置を行いながら、全庁的なバランスの中で必要な体制を検討している。

議員 人を増やす前に仕事のやり方を見直し、時間を生み出すべき。年間約65万時間の中で業務を見直し、戦略に向き合う時間を確保すべき。DXにより業務を見直し、人的資源を再配分すべき。

総務企画部長 業務の可視

化は必要と認識している。業務可視化ツールの試験導入を予定している。業務の見直しと効率化を進め、人的資源の有効活用を図る。業務改善を積み重ね、生産性向上につなげる。



釜石港を望む発展